

真宗総合研究所 大谷大研究所

研究所紀要

第七号

四 次

- 信文類をめぐる一部六巻の略称……………細川行信（一）
親鸞の声点資料をめぐる諸問題……………金信昌樹（七）
『教行証文類』「信卷」における〈乃至〉をめぐる諸問題……………小妻典文（一一一）
琥珀のなかの虫——ニーチェ中期のユートピア——……………須藤訓任（五一）
大谷大學圖書館藏宋金元版佛典目錄……………藤島建樹（七五）
新美南吉資料研究——「哈爾賓日日新聞」掲載作品について——……………斎藤寿始子（一一一）
高倉学寮草創考……………深田虎雄（一一九）
戦前の大谷大学開放事業について……………龍弘信（一五七）
-
- 一九八八年（昭和六十二年）度 研究所報告……………（一八九）
執筆者紹介……………（一一〇五）
-
- The Early Buddhist Meditation……………Nathmal Tatia (95)
The Concept of Duhkha in Buddhism……………Nathmal Tatia (87)
A Brief Survey on the Sanskrit Fragments of the Lokaprajñaptisāstra……………Siglinde Dietz (79)

Investigation into Buddhist Literature, A Project of the Academy of Science
in Göttingen

Siglinde Dietz (71)

法に性別なし——佛教における性と解放—— リタ・グロス (47)
G. オーヴァー・ハンマー教授の近著

佐藤智水 (37)

原始佛教における過去仏・未来仏思想の形成

吉元信行 (1)

CONTENTS

当研究所の一九八八年（昭和六十三年）度の研究活動報告である『紀要』第七号をお手許にお届けします。

この第七号では、指定研究の報告として、学事研深田虎雄氏の論文、学外者による海仏研研究発表として、ジャイナ研究所長N・タティア先生、ゲッチンゲン大学教授S・ディーツ先生、ウイスコンシン大学助教授R・グロス先生、元光華女子大学講師佐藤智水先生の論文、学内一般研究から、細川行信、藤島建樹、斎藤寿始子、吉元信行、須藤訓任、の諸先生および嘱託研究員の柏原信行先生、さらに研究補助員の金信昌樹、小妻典文、梶浦晉、茨田通俊氏の論文を収録しました。なお瀧弘信氏の論文は、一九八九年度に新しく発足した指定研究「大学開放と生涯教育の研究」の研究成果ですが、早急に公表したいとの判断で、一号はやく収録させて頂きました。

内外の情勢が激動する昨今です。歴史は二十一世紀に向って大きく動いています。当研究所の設立趣旨を確認しながら、時代社会に対応する創造的な研究に向けて、さらに前進してゆくことが願われます。
(S・Y)

大谷大学真宗総合研究所
研究所紀要 第七号
(昭和63年度 研究報告)

平成2年2月20日印刷
平成2年2月25日発行

編集者 大谷大学真宗総合研究所
代表者 所長 渡辺貞麿

印刷者 京都石田大成社

発行者 大谷大学真宗総合研究所
〒603 京都市北区小山上総町
TEL (代) 432-3131・内線555